

日本看護歴史学会

会報

日本看護歴史学会
第 28 号
1997年10月15日

第十一回日本看護歴史学会に参加して

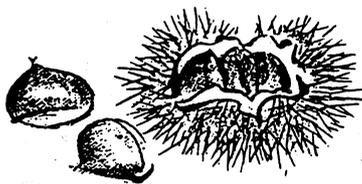
赤澤 彌子

第一回日本看護歴史学会は、一九八七年の八月二十六日に、京都市立看護短期大学で開催されています。十月十五日づけで出された創刊号に、亀山美知子氏の「豊かな創造性を求め、新たな息吹を」の巻頭言が掲載されています。本学会でも亀山氏は、「若い後継者の育成」を提言されていました。若いエネルギーが日本の看護歴史を発展の方向に牽引してくれることを期待したいと思えます。その息吹を、今回の大石杉乃氏等の発表に感じ、このような研究者が多く育ってほしいと思いつながら聞いていました。筆者より年上とは到底信じられない歯切れの良い語り口の別所智恵子氏の「保良せき（厚生省医務局初代看護課長）」

に関する逸話を聴きながら、伝記を書くのは半生の仕事で、片手間にやることではなく、自己と向き合うことでもあると思いつながら聴きました。「研究より総説を」の思いと重ねながら考えていました。今回のメインテーマは、「保健婦助産婦看護法五〇年の証言」です。看護教育模範学院という歴史的な所産である学校に学び、戦後の看護改革に関心を持つ者としては、聞き逃せないテーマでした。戦後の歴史の生き証人である金子みつ氏（元厚生省看護課長）の「当時、終身免許は医師と弁護士だけだったが、保健婦助産婦看護婦も終身免許を取得できるようにした」こと等、厚生省等上層部と現職の看護職者との意識のずれか

らくる混乱、悩み等大変な努力のなかから、看護制度の基礎が築かれていったのがよく判りました。その頃の記憶として鮮明なのは、私たちが新しい看護を創るのだと瞳を輝かしていた先輩看護婦のまぶしいくらい生き生きとした姿です。「褥瘡は看護婦の恥」の先輩の言葉が脳裏に焼き付いています。分科会では、長年戦後の占領政策と看護改革の研究に取り組んでこられたライダー島崎玲子氏の話題提供グループに入り、マッカーサー元帥の指名でGHQ衛生教育福祉課長に就任し、その後公衆衛生と教育を分離させ、公衆衛生福祉局長となったサマス・クロフォード准将の考え方が看護改革に与えた影響について興味深く拝聴しました。特に看護教育が厚生省管轄になった理由について、長年の疑問が解けました。各分科会の報告のなかで、第4分科会の「日赤看護婦留学第一号田淵まさ代の人物と生涯」の報告のなかで、田淵まさ代氏が日赤看護婦の津田英語塾への留学をすすめたという内容にハッとしました。というのは、早川かつ氏（藍野学院看護短期大学名誉教授・ナイチンゲール記章受賞）が駿河台女学院英語高等科に内地留学し昭和十四

年に卒業されています。一九六一年にメルボルンで開催された第十二回国際看護婦協会大会に参加し、ヘンダーソンの「看護の基本となるもの」に大きな感銘を受け、当時勤務されていた大阪赤十字病院の看護婦にいち早く紹介し、看護婦たちは購入した何冊かを表紙がボロボロになるまでみんなで回し読みをしたとのこと、外国文献に目を通し、先を見通した提言で大阪の看護界に与えた影響ははかりしれない位大きい。あの昭和の初期に英語を学ばせに内地留学させた赤十字社の考えについて何となく脳裏に引っかかっていた疑問がとけました。先輩諸師のお元氣な姿に接し、知的探究の旅の爽やかな余韻に浸ることができたことを感謝しています。



第十一回大会報告

幹事 福本 恵

第十一回大会は、本年が保健婦助産婦看護法(以下「保助看護法」)が施行されて五十年目の年に当たると銘うって開催した。第一日は「保助看護法五十年の証言」をメインテーマとして保助看護法制定当時のことを金子光氏、岡山県モデルスクールの草創期のことを神秀子氏、京都市の保健婦事業を中心とした看護行政のことを林みどり氏に御証言頂いた。さらに、当時の厚生省看護課長「保良せき氏」と伝記作家として親交のあった別所智恵子氏にご講演頂いた。この中で法律制定当時の中央と地方の動き、看護教育と行政の関連、GHQとの対応等エピソードを交えた証言を拝聴し、当時の状況を伺い知ることができた。二日目は大石杉乃氏の研究発表を皮切りに続いて「保助看護法の制定当時を振り返って」と題し、前述の四氏による放談会に入った。質疑応答、意見交換が時間いっぱいまで熱心に続けられた。参加者それぞれの問題意識・研究課題の交流があり有益であつた。

会員総会では、昨年からの懸案事項であつた「特別会員制度」の導入について提案、審議された。前号に登載した特別会員規則に基づき、本総会の場において公告したとみなして(初回のみ)承認されました。本会初の特別会員は、看護の歴史上、有用な時代の証言者であられる金子光氏そして大森文子氏です。両氏の今後益々のご健勝をお祈りしつつ、特別会員として看護歴史研究の充実・発展にご協力賜われることを会員一同多大の慶びとするものです。

会計報告では、今年度会費収入が増加、数年分の滞納が改善されつつあるという報告があり、安堵したムードが漂った。会の発展に財政基盤の安定は不可欠であることとを改めて実感した。

その他の決定事項は次のとおり。
 会計監督：平塚 朝子氏(関東)
 日隈ふみ子氏(関西)

第十二回大会
 開催地：別府(大分県)
 地元担当者：江崎フサ子氏
 (大分医大看護学科)
 開催時期：平成十年八月
 詳細は次号会報にて公告予定。

日本看護歴史学会 1997年度予算案

収入の部 (単位 円)			
項目	予算額	摘要	前年度決算額
前年度繰越金	801,931		434,389
会費	680,000	170名×4,000	1,114,000
寄附金その他	50,000		70,369
合計	1,531,931		1,618,758

支出の部 (単位 円)			
項目	予算額	摘要	前年度決算額
事務経費	250,000		186,961
印刷費	(40,000)		(32,865)
通信費	(160,000)	会報 3回 学会誌 1回	(149,998)
文具、その他	(50,000)		(4,108)
幹事会開催費	160,000		155,666
出版費	400,000		474,200
会報発行費	(100,000)	年3回	(82,800)
学会誌発行費	(300,000)	年1回	(391,400)
会員名簿費	0	(1回/3年)	0
分科会費	20,000		0
予備費	701,931	学会誌10号(96年度)	0
合計	1,531,931		816,827

日本看護歴史学会 1996年度会計報告

収入の部 (単位 円)			
項目	予算額	決算額	差引額
前年度繰越金	434,389	434,389	0
会費	680,000	1,114,000 会員 266口 新入会員 12口	434,000
寄附金その他	50,000	70,369 会誌等売上(70,000) 利息(369) 寄附金(0)	20,369
合計	1,164,389	1,618,758	454,369

支出の部 (単位 円)			
項目	予算額	決算額	差引額
事務経費	250,000	186,961	63,039
印刷費	(40,000)	(32,865)	
通信費	(160,000)	(149,988)	
文具、その他	(50,000)	(4,108)	
幹事会開催費	150,000	155,666	▲5,666
出版費	300,000	474,200	▲174,200
会報発行費	(100,000)	(82,800)	
学会誌発行費	(200,000)	(391,400) 24号 10,300 25号 30,900 26号 20,600 27号 21,000 学会誌9号(391,400)	
会員名簿費	0	0	0
分科会費	20,000	0	20,000
予備費	444,389	0	444,389
合計	1,164,389	816,827	347,562

次年度への繰越額
 収入額 1,618,758円 - 支出額 816,827円 = 801,931円

(会計監査報告)
 監査の結果、上記報告書は日本看護歴史学会の1996年度の収支を適正に表示していることを認めます。

平成9年8月1日 会計監査 伊賀重子
 平成9年7月17日 会計監査 金子悦子

